

ペルー 生食用ブドウの日本初上陸は約2,500トン

FreshFruitPortal 2024年2月22日

2023-24年度シーズンに、ペルー産のブドウが日本市場に初上陸した。ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)のアレハンドロ・カブレラ事務局長は、デビューのシーズンは大成功だったと言う。

同氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、「第5週(2月初め)までに、30万箱(8.2kg/箱)を輸出した。これは2千トンを超え、ほぼ2,500トンに近く、ペルーから日本に輸出できるようになった最初の年に、日本は我が国からそれだけの果実を受け取ることができた」と語った。(以下「」は同氏の発言)

同協会は、ペルー貿易観光促進庁(プロムペルー)及びペルー在日貿易事務所とともに、東京、埼玉、神奈川、千葉にある30のスーパーマーケットで果実の宣伝を行った。2日間で推定1万人がペルー産ブドウを試食した。「これはペルーの生食用ブドウ産業にとって間違いなく重要なマイルストーンであり、最も要求の厳しい市場の1つで果実の品質と状態を実証する機会である。日本への参入は、我々が信頼できる安全な供給者であることを更に裏打ちするものである。」

品種

2024年第5週までに、ペルーは14品種以上を輸出しており、アリソン(種無し赤ブドウ)が全出荷量の約22%を占めている。2位は古典的な種有り赤ブドウ品種のレッドグローブで、19%を占めている。3位は種無し緑色品種のスイートグローブで出荷量の16%を占め、次いで種無し緑色品種のオータムクリスプが14%を占める。

価格

日本市場の価格について、カブレラ氏は需要と供給の問題を指摘した。「ペルーは今年、気象条件のために供給量が少ないことがわかっている。ここ数週間は、より積極的な取引量があり、それが平均価格に影響を及ぼしている。しかし、まだ輸送中の果実がある。」

同氏は、アジアへの出荷には30~35日の輸送期間があることを強調した。

「そのため、ペルーを出発した果実の一部はまだ目的地に届いていない。ペルーの出荷シーズンの最後の数週間で価格がどのように動くかを見極める必要がある。」

業界の予測

カブレラ氏は、日本での成長の可能性について楽観的である。「間違いなく、来シーズンは出荷量が増加し、日本はすぐにペルー産ブドウの輸出市場トップ10に入ると信じている。」

チリとペルーは、8月8日にモンティセロ・カジノ・イベント・センター(チリ・サンティアゴ)で開催される第1回[世界ブドウ会議](#)で、業界が直面している主要な課題について話し合うこととなっている。

(関連記事)ペルー ブドウ輸出量は今季第1四半期に40%増加

FreshPlaza 2024年2月20日

ブドウの輸出は増加を続けている。ペルー輸出業者協会(ADEX)によると、2023-24年度出荷シーズンの最初の3か月(10~12月)の輸出額は10億5,800万米ドルに達し、2022-23年度の同時期の7億5,368万9千米ドルを40%上回った。

ADEXは、「この結果は、サイクロン・ヤクとエルニーニョ現象によるペルー北部及び南部での出荷シーズンの前進(1月または2月に悪影響を及ぼす可能性があった)と、旧正月(多くのブドウが消費される)の前に一部のアジア諸国で需要が高まったことが一因である」としている。

同協会のクラウディア・ソラノ・オレ農産物輸出部長は、「ペルーが世界レベルで獲得した地位を手放さないよう、引き続き懸案事項に取り組む必要がある」と述べた。フラクチュアンテ・コンサルタント社によると、米国農務省のデータでは、2022-23年度の出荷シーズンには、ペルーは世界最大のブドウ輸出国であった。

懸案事項としては、ミバエやその他の病害虫の駆除、病害の監視、一層の市場開拓、そして数か月前に日本で達成されたように、輸出先の検疫要件を見直してもらうことなどがある。

50品種以上

ソラノ・オレ氏は、ペルーは50以上のブドウ品種を輸出していると付け加えた。最も輸出が多いのは種無し(緑)ブドウ品種で、種無し赤ブドウ品種、レッドグローブ、種無し黒ブドウ品種がそれに続く。

同氏は、「今の消費者は種無し品種を好む。しかし、アジアでは、その風味と食感のためにレッドグローブ品種が優先される」と述べた。

ADEXの貿易情報システムのデータによると、2023-24年度出荷シーズンの最初の3か月間(10月~12月)は、米国が最大の輸出先で47%のシェアを占めた。オランダ、メキシコ、香港、中国、英国、カナダ、スペイン、台湾、韓国がこれに続いた。

上位20市場のうち、成長率では香港(130%)、ドミニカ共和国(96%)、エルサルバドル(87%)、メキシコ(62%)、グアテマラ(60%)が際立っている。

また、ペルー産の果実が初めて日本に輸入された(輸出額は約800万米ドル)。

2023年(1~12月)のペルーのブドウ輸出額は17億4,547万9千米ドルで、2022年の13億4,600万ドルを30%上回った。

出典: adexperu.org.pe